

リリカルマジカル  
はやて  
がんばる

Lyrical Magical HAYATE GANBARU Mushi-Mushoko magic girl lyrical Mushi Fox Book This book is a thing for an adult



恋愛漫画家

今日も今日とて、3人で励むなのはとフェイト、そしてユーノ。  
その元に、憔悴した様子のはやてとヴィータがやってきた。

「ヴィータに聞いてはいたけど、ホンマにしてるんやねえ…」  
「全く…信じられねー奴らだぜ…でもまあ都合はいいんだけど」

「あはは…まあでもこれはある意味仕事の一環ではあるんだよね」

先日の事、ユーノが書庫から「性魔術」の本を見つけたのだ。  
実際、フェイトはリンカーコア強化のために、プレシアから性的行為を強制されていた。  
(既刊「なのはがんばる」参照)

そこで、既に性行為に及んでいたユーノ、クロノ、なのは、フェイトは  
リンディ提督の指示の下で、極秘裏に性魔術を研究する事になったのだ。

「今は、私はユーノ君とだけ、リンディ提督はクロノ君とだけ、フェイトちゃんは  
三人ともとしてて、それぞれどういう差が出るかも試してるんだ」

「ふえー、すごい話があるもんなんやなあ……」  
あまりにも自分の常識から離れてるから思考停止しそう。  
ヴィータは思考どころか身体まで硬直してるし。

でも、だからこそ私らは、なのはちゃんたちの所に。

「あのな、ちょっと相談に乗ってましくて今日ここに来たんや」

そう、自分たちにとって、青天の霹靂だった、あの事を。

リリカルマジカル  
はやて  
がんばる

リリカルステージカタログ表紙の絵。なのはでシリアス寄りな絵は初めて描いたかも…。

寝る前にジューズを飲み過ぎて夜中に起きてしまったウィータをトイレに連れて行った時

私たちは  
とんでもないものを見てしまった

自分にとっては  
この子たち4人に  
初めて出会った時と  
同じほどの衝撃で

ウィータも驚いてしまって  
ただただ口をあぐりとさせ  
この様子を眺めるしかなかった

あのいつも冷静沈着な  
ザフィーラが  
今まで見た事のない  
何かに取り憑かれたような  
必死の形相で  
シヤマルを  
攻めたてている

シヤマルは  
汗だくになり  
髪を振り乱しながら  
それを受け入れ

シグナムは  
同じく髪を乱し  
汗まみれで  
力なく  
くつたりとしていた

分からないけど  
これはいい  
いいじゃない  
見てはいい  
そう感じた

けど正直自分も  
どうしていいの  
か混乱して  
でも自分以上に  
ショックを受けている  
ウィータを見て  
少し冷静になり

掠れた声で  
何だよこれ...と呟き  
何かの抜け殻みたい  
なってしまった  
ウィータの手を引き

部屋に戻り  
大丈夫やら...と  
何の根拠もなく  
でもそうに違いないと  
自分自身にも  
信じ込ませるように  
ウィータに言い聞かせ

同じベッドの上で  
抱き合いながら  
でも何も言えず  
眠ったのかどうか  
自分でも分からない内に  
気が付いたら朝になっていた

「なるほどね…それはもしがしたらユーノ君と同じような理由かな」  
「繁殖期的なプログラムが何かの拍子で入り込んでバグってるとが」  
「精液に魔力が染み込んで、受ける側が上手く処理出来てない可能性も」  
「だから普通以上に体力と魔力を消費しちゃうのかもね」

3人は次々に仮説を立てて、その対策を考えてくれてとても頼もしい。  
それにしてもびっくりや…そんな事も有り得るんやねえ…

「じゃあ実際これからどうするのさ」

「そうね…シャマルとシグナムの代わりにザフィーラとするとしたら…」  
「やっぱり私たちと同じような…いや、それ以上の訓練をしないとだわ」

なのはちゃんちと同じ訓練…というつまりは、アしをするんやね…  
セ…セックス、を。

私は覚悟を決め、返事をした。  
「うん、ヒシヒシ鍛えてください」

「本当にいいの？」  
なのはちゃんが真剣に私に問うてきた。

勿論や、何と言っても私はあのコらの主人なんやから。  
「そやから、肉体的にも魔術的にも精神的にもっとタフにならんとね」  
「ああ、あたしらは騎士仲間なんだから」

なのはちゃんとフェイトちゃんは一旦顔を見合わせ、強く頷いてくれた。  
ユーノ君は何故か苦笑いしてる。  
…何となく普段の様子が目に浮かんだ、がんばれユーノ君。



そして  
特訓を受ける前に  
まず身体を慣らす事に



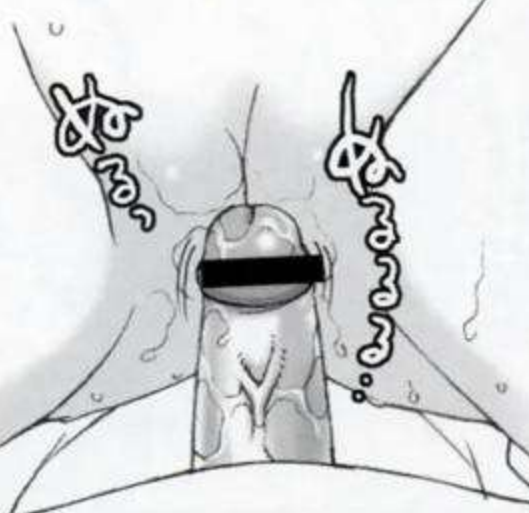




んん…  
入ってくる…

何か  
変な感じ…  
指と全然違う

最初はとにかく  
力を抜いて  
受け入れる事だけを考えて



お医者さんごっつ  
みだいやわ

テストタロッサ  
さげー手馴れてる…

うん…  
二人とも  
よく濡れてるね

んん…  
んん…  
んん…



そうだね…  
この部分も  
ヴィータの方が  
普段激しく動いてるから  
受け入れやすそうだし



おいテストタロッサ  
やるのは  
あたしからだぞ

騎士は主人の為に  
危険がないか  
確かめないとだからな

私ヴィータより  
幼いよ…



…あれ  
中に何か熱いの  
流れ込んで…?  
何だこれ……

ん

くっ…  
ユーノの  
奥まで入ってきて…

その熱いのを  
抵抗しないで  
全身に  
行き渡らせるんだ!



うん…  
それじゃ

魔力を込めた  
精液を流し込むよ



…それっ!



あっ…

熱いの  
が  
中  
の  
身  
体  
の  
が  
広  
がる

頭のとつぺんから  
足の先まで…  
熱い衝撃の波が  
突き抜ける…っ!



よし…何とか  
受け入れ  
成功だね

ユーノくんの  
魔力が  
全身に  
行き渡  
った  
みたい

は

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん







そして  
二人の猛特訓が  
始まった

魔力負荷のかかる  
双頭テイルドーの  
相互責め  
女性器自体も鍛錬

は…はやて  
そんなにしたら  
またイッちゃうって…

イッたらまた  
最初からや…  
イク寸前で  
魔力を高めるんや!

前後から系統の違う  
魔力を含んだ精液を  
受け入れ取り込み  
安定させる

ヴィータの後ろは  
アースラの中では  
一番キツイな…

んあ…  
クロノのもの  
ユーノのもの  
すげー勢いで  
噴き出してる…

膣はまだまだ  
浅めだから  
深く入れると  
お腹の奥に  
突き刺さっちゃうね

魔力のこもった精液を  
受け入れやすくする魔法を  
自分流にアレンジする事

はー  
すごい勢いで  
たっぷりと  
出てるね…

それでも  
クロノの攻撃系の  
魔力を受けるのだから  
大分楽になってきたよ

そして実際に  
攻撃魔法を  
中でレジストするという  
最終訓練

あうう…  
半端ないわ  
アレイちゃん…

うん…これなら  
どんな相手でも  
耐えられそうだ

くっさ  
テメタロツサの奴  
ちっぴー兼してささささ…

こうして二人は過酷な特訓に耐え  
新たなステージに立つ事となった

そして  
その特訓を  
影から  
見つめていた  
謎の存在

家族の絆から  
やっぱ  
いいもんだよね♪

誰がりに行くところさ

たったった ———♪



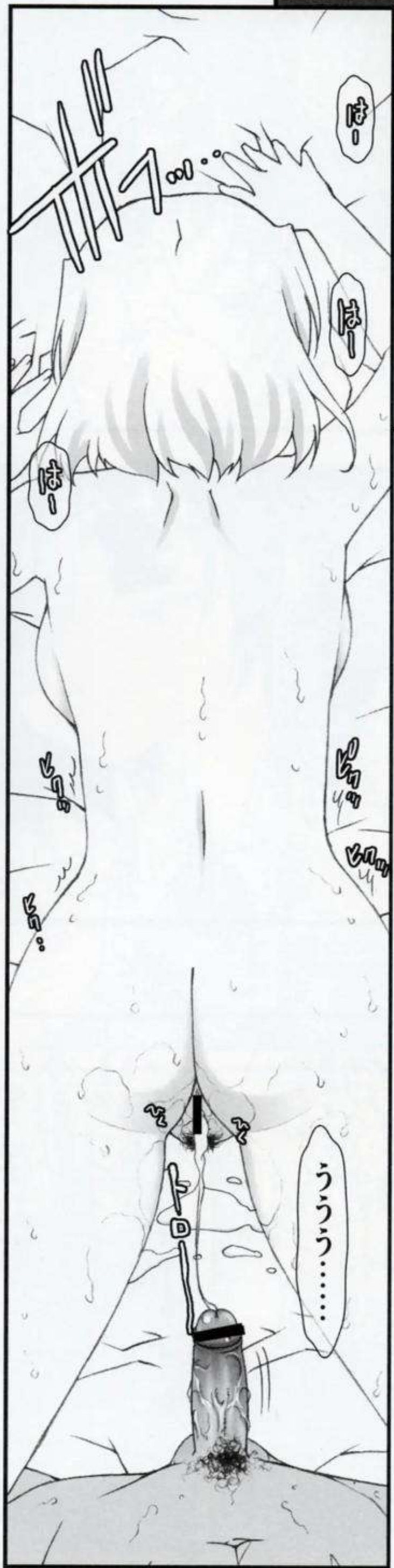
気にするな...  
私もシヤマルも  
まだ行けるさ

はー  
はー



ぐっ...  
済まぬ...  
まだ足りん  
ようだ

はー  
はー



はー

はー

はー

はー

はー

はー...  
はー



ちよっと  
待った!

次は  
私らの番やで



ヴィータ!!

はやてちゃん!?



ど…どうだよ  
あたしの中は

結構悪くないと  
思うんだけど

うむ…確かに  
よく鍛錬されている  
頑張ったんだな

へへ…  
んじや思いつきり  
感じさせてやるよ

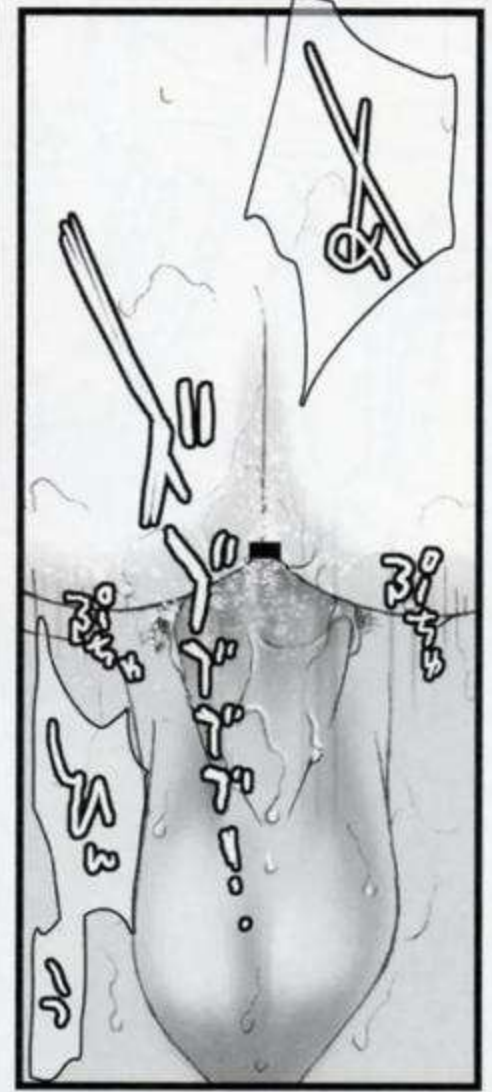
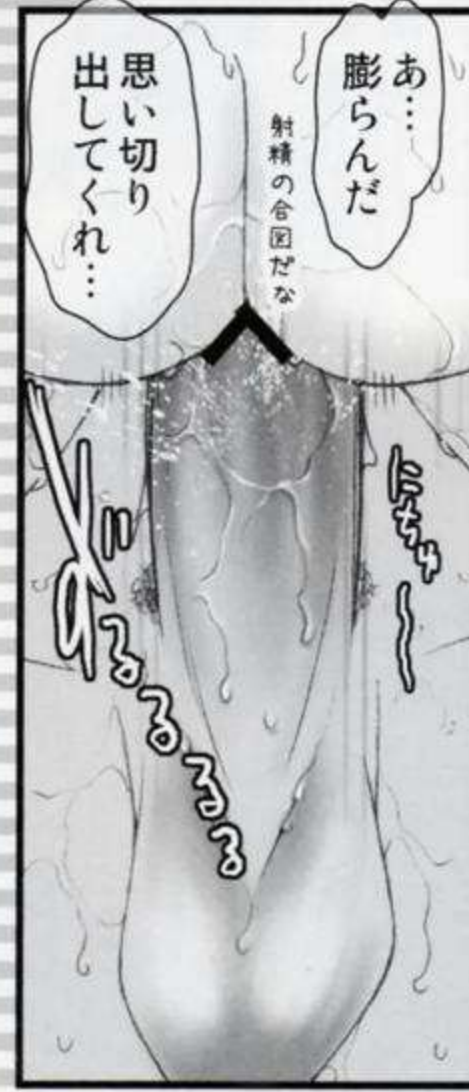
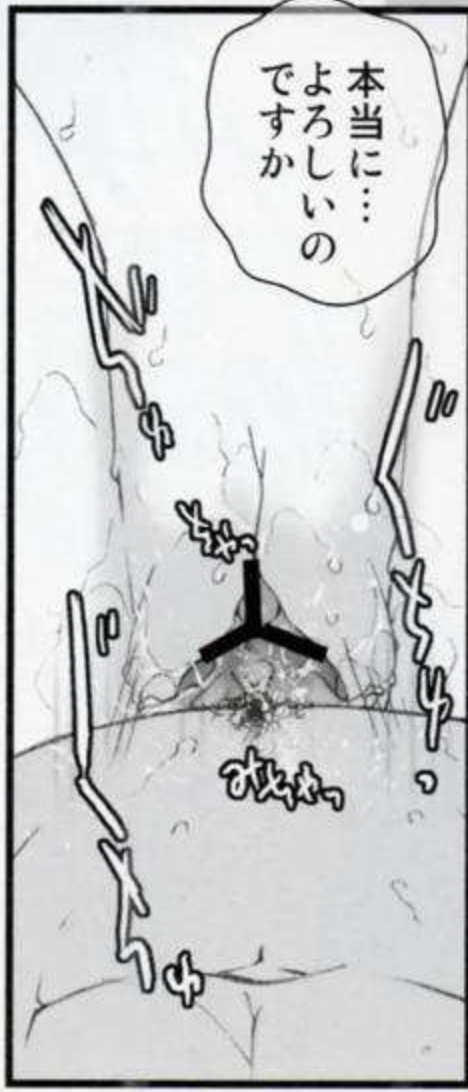
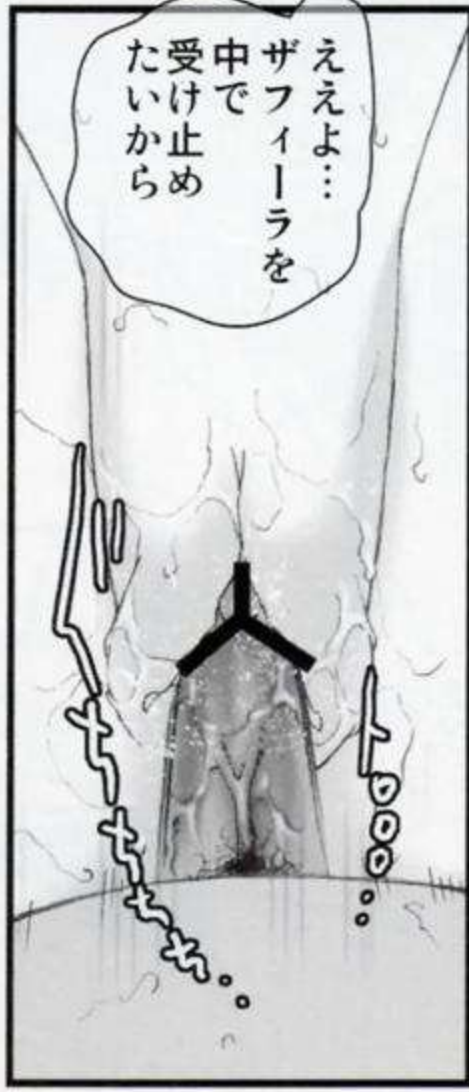
押し広げられて  
ぐーっと  
奥まで来るね

やっぱり  
ザフィーラは  
遅いな

ええよ…  
ザフィーラを  
中で  
受け止め  
たいから

本当に…  
よろしいの  
ですか

あ…  
膨らんだ  
射撃の合図だな  
思い切り  
出してくれ…



あっ

すげー！  
中に入り切らないくらい  
出てる…

すまん！  
大量に  
出してしまったが  
苦しくないか

へっ…これくらい  
余裕だって

はー  
はー  
はー

うわ…  
お腹がちよひじ  
出ちぎってるじゃん  
特訓してなかったら  
ヤバかったかもな…







すごい量やな…  
二人分くらいあるかも…

申し訳ありません  
大丈夫ですか  
主…

ふふ…訓練では  
何回も中に出されて  
お腹パンパンに  
なってしまうような事も  
やってたから  
これくらい  
全然平気や

なんと…!!

あ

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は



そしてー

ほほ

さあさあ  
気兼ねなく  
やっちゃって  
いいからね

有難い…  
恩に着るぞ  
アルフ

はー  
はー

まあ同じ獣系って  
誼みもあるし  
頑張ってた二人の  
応援もしたいからね

真打登場  
アースラー1の性豪  
アルフさんだよ♡

さあさ  
御託はいいから  
好きなだけ  
出しなよ♡



んふふ♡  
私たちってば  
もしかして  
相性いいかもね♡

子供とか  
作っちゃおうか

も…  
カンベンしてくださ…

くっ  
くっ  
くっ



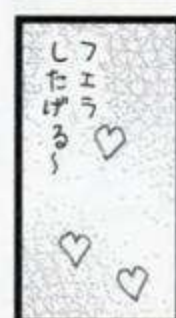
ほら  
もう一発♡



もっ♡  
もっ♡



もう一発♡



フェラ  
したげる♡



お尻にも♡

## エピソード

「何か、最初からアルフさんに任せれば良かったかな」  
暴走ザフィーラを打ち止めにしてしまったのを見て、  
少し気が抜けて、軽く後悔してしもた。

でも、そんな私の後ろ向きな言葉に、アルフさんが優しく答えてくれた  
「うん、それは違うよはやて。やっぱりまずは家族の絆を  
確かめるのが大事だったよ。それから仲間の私が助っ人に入ったんだ」  
…そう言われてから、やっぱり間違っていた事を確認できた。  
「うん、そやね…私もヴィータも、ザフィーラの事受け入れられたから嬉しかった」  
そう言うと、アルフさんは嬉しそうに私を抱きしめてくれた。

「お疲れさまでした主はやて、身体の方は大丈夫ですか？」  
「それにしてもびっくりしたな…きっとすごい特訓だったのね」  
二人がそれぞれ私の身体を気遣ってくれる。

「そや、今度みんなで一緒に、なのはちゃんたちの特訓を受けようか」  
「わー、それは楽しそうでいいな〜」  
「い、いや私はそれほどあっちの事は得意ではないので…」

対照的な二人の答えが楽しい。

「よし、今度はベルカの騎士の逆襲や！」

## 編集後記

長々とお付き合いいただきまして  
ありがとうございました。

シリーズも回を重ね、ますます混沌としてきました…ええ。  
まあそれでも、書いてる方は楽しいです。  
ついて来てもらえると嬉しいです…

参考資料のA's漫画版を読みつつ、  
ほのほの騎士たちに癒されながら  
己の書いてる物との乖離つばりに身悶え。

もう少しシグナムとシャマルを書きたかったと  
思いつつ、でもまた次がきつとあるさと  
後記をみさせてもらいます。

だってSSがあるのだもの！  
3期スタート万歳！



制作  
恋愛漫画家

発行日  
2006年11月3日

印刷  
Power Print

連絡先  
hironasu@mud.biglobe.ne.jp

HP  
<http://www.renaimanga.com/>

無断転載・複製はお止めください

# リリカルマジカル はやてがんばる

恋愛漫画家 成年向



リリカルマジカル

# はやて がんばる

リリカルマジカル はやてがんばる

恋愛漫画家 成年向



恋愛漫画家

